

特 集 「2016 年度人工知能学会全国大会（第 30 回）」

プログラム編成と一般セッション

有村 博紀（北海道大学）

この数年の人工知能への関心の高まりを背景として、全国大会の発表数が増加傾向にある。そこで今回の大会では、例年どおり、人工知能に関する多様なプログラムを提供し、人工知能研究者の議論と交流の場を提供するとともに、多数の参加者がストレスなく参加できて、同時にプログラム編成が行いやすいような持続的な仕組みをつくることに留意して、プログラム編成を行った。

今回は 10 年ぶり 2 回目の会場である北九州国際会議場と、それに隣接するアジア太平洋インポートマート棟を会場として確保した。これらの二つの建物は小さな通りによって隔てられているが、小倉港に面する同じコンベンション地域の一角にあり、会場間の移動は比較的楽であった。プログラム編成においては、基調・特別・招待公演（メインホール）とインタラクティブセッション（イベントホール）は大会全体の共通プログラムとし、それ以外は、全 15 会場での並列セッションとして実施した。例年と同じく、一般講演 1 件当たりの発表時間は 20 分を確保した。

さらに今年は、実験的にセッション構成の規格化に取り組んだ。これは、種別によらず、一つのセッションは 100 分を基本として、同じ時間帯の全会場で開始と終了の時間が同じになるようにすることで、(1) 多くの発表に対するプログラム編成を容易にし、同時に、これまで参加者からの要望が多かった (2) 異なる会場間での移動の容易さ、(3) プログラムの表示の見やすさ（以前の横長棒グラフ形式から時間割型にプログラム表示を変更）を可能な限り実現した。

一般セッションについては、論文募集記載の研究分野を基本として、プログラム委員会で論文の内容を勘案してセッション割当てを行った。表 1 に口頭発表の分野ごとの発表件数を示す。これは、発表申込み時の第一希望トピックをもとに適宜集計したもののだが、人工知能分野の発展と深化や、最近の流行が見て取れる。特に、機械学習やデータマイニング、ロボット、Web、テキストに関する発表が多くなっていることがわかる。

大会企画セッションでは注目の人工知能プロジェクトや新動向に関する講演や企画が行われた。オープニングセッション「人工知能の今／ロボカップの過去・現在・未来」では、ますます盛上がりを見せている人工知能と学会を取り巻く最新の状況について松原 仁会長から、日本発の国際的人工知能ムーブメントの一つであり、2017 年に名古屋での世界大会開催が決定した「ロボカップ (RoboCup)」について、ロボカップ委員会関係者から講演があった。「公開討論：人工知能学会 倫理委員会」で

表 1 研究トピックごとの発表件数

研究トピック	発表件数
機械学習	56
データマイニング	46
ロボットと実世界	44
HCI・教育支援	42
AI 応用	41
Web インテリジェンス・Web マイニング	37
自然言語処理・情報検索	34
画像・音声	17
ニューラルネット・ソフトコンピューティング	16
基礎・理論	16
知識・身体知	15
エージェント	11
合計	375

は、現在と未来の人工知能技術について、その社会的な影響や、研究者倫理、学会の役割について議論し、今後の人工知能技術の研究開発指針について一般の参加者も含めて検討した。「公開イベント：コンピュータ囲碁はどこまで人間に迫れるか」では、日本のプログラム Zen が九州ゆかりのプロ棋士武宮陽光六段に挑戦した。「人工知能研究拠点 AIP の設立」では、今年度に理研に設立された同研究拠点の設立を踏まえて、最先端の人工知能技術の紹介や拠点の将来像について議論した。「JST における先導的 AI 関連プロジェクトの紹介」では、現在進行中の先導的プロジェクトが紹介された。「JSAI 2016 併設ワークショップ：機械学習の社会実装に向けて (1) (2)」では、機械学習、特に深層学習がビジネスや社会で広く利用されるための仕組みづくりについて議論された。

本大会では、昨年度の大会に引き続き、各種の表彰を行った。一般セッションと、OS、NFC における発表論文を対象に各セッションの座長と評者による合議により、論文としての新規性、有用性、発表点を総合して、大会優秀賞（口頭発表部門）と学生奨励賞を選定した。インタラクティブセッションの発表に対しては、発表と研究の質に関して参加者に投票してもらい、大会優秀賞（インタラクティブ発表部門）を選定した。今大会の盛況を反映して、例年に比べても多くの、質の高い発表が選定されたことは喜ばしい。

今回の大会では、昨年に引き続き、どの会場も参加者が多く、盛況であった。一部の会場では聴衆が会場に入りきれなかったセッションもあったが、全体としては、大きなトラブルもなく進行し、大会委員会としてはホッとしている。一般・OS・NFC などの各種セッションや企画において、発表者と参加者の間で活発な議論ができ、盛り上がった。これも積極的にご参加いただいた大会参加者の皆様と、円滑な運営にご尽力いただいた大会委員会メンバのおかげである。ここに、深く感謝する。